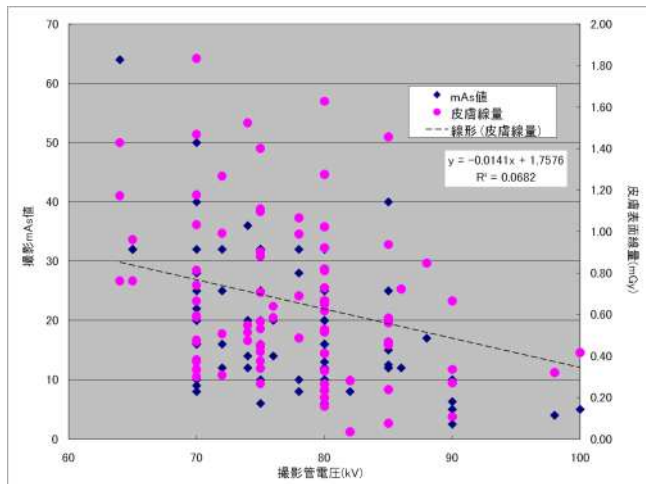


WGでは、救急診療における一般撮影の撮影条件や画像処理について、実情を把握するためのアンケート調査を行い、JRC2011 (Web 開催) で発表しました。



この図は、救急診療における primary survey 骨盤ポータブル撮影時の管電圧 kV と mAs 値 (左縦軸)、患者の皮膚表面線量 mGy (右縦軸) の関係を示しています。それぞれにかなりのバラツキがあり、使用されている散乱線除去用グリッドも多種多様なものが用いられていることに、驚きました。

第14回日本臨床救急医学会総会・学術集会のシンポジウムでも問題提起をし、標準化の必要性を訴えました。



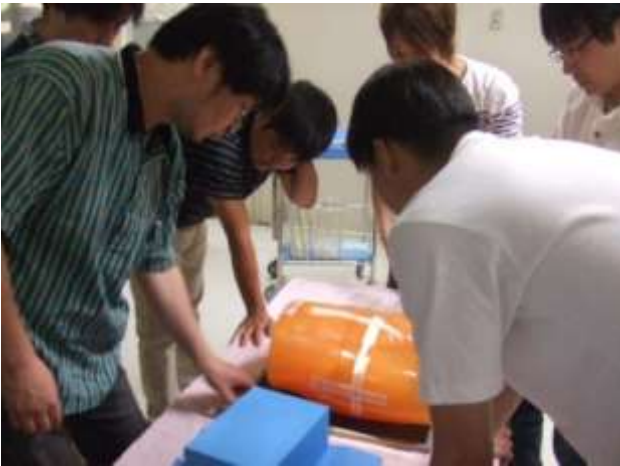
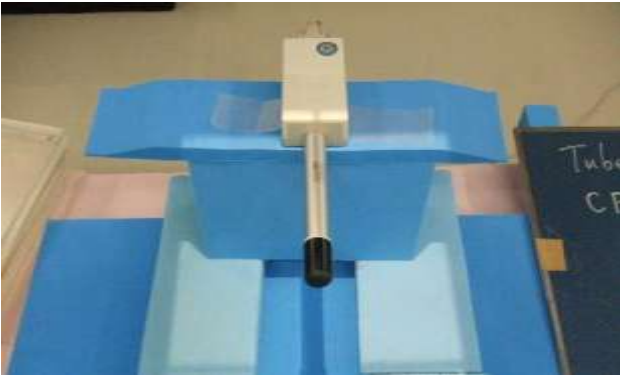
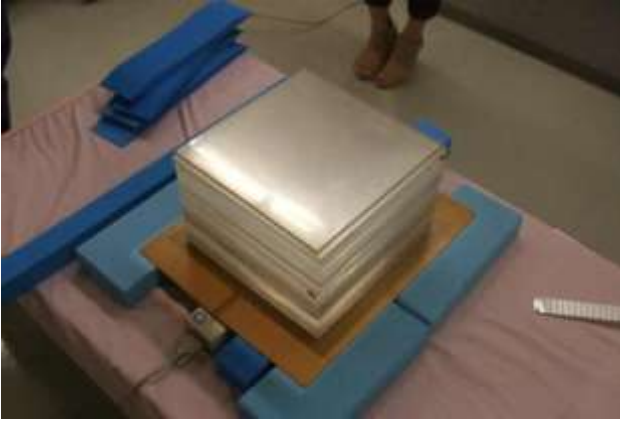
WGでは **primary survey における骨盤撮影** について、撮影条件の標準化、半切サイズ縦置きの重要性、画像処理の3つのポイントについて、検討しまとめていきたいと考えています。

2011/7/16 に大阪市立大学医学部附属病院の撮影室をお借りして、実験を行いました。班員とその施設の若手、総勢10名が集結し、楽しい実験となりました。



グリッド密度、格子比の異なる6種類を各施設から持ちより、線量計、アクリル板、人体ファントム、矩形波チャートなどを使用していろいろなデータを収集しました。





朝9時集合で予定の17時まで、内容の濃い実験を楽しく行えました。他施設の方々とこのような実験ができることが、このWGのメリットでもあります。

実験後は、ビール片手に2度づけ禁止の大阪名物“串カツ”で交流を深めました。



データの取りまとめ、その他の検討などWGの活動はやっと折り返し地点ですが、皆さまに有益な情報を提供できるように、取りまとめをしていきたいと思っています。

皆さまのご意見ご感想をお待ちしております。

班長：中前光弘